

1. とうもろこしのシカゴ定期は、12月には370セント/ブッシェル台で推移していたが、米国産の豊作が確定する一方で、南米産の生育悪化懸念から1月には380セント/ブッシェル台まで上昇した。その後、南米の天候が回復したこと、米国の作付け面積増加への期待から下落したが、米国の天候不順による作付け遅れ懸念により上昇し、380セント/ブッシェル台となっている。
2. 大豆粕のシカゴ定期は、12月には340ドル/トン前後で推移していたが、高温乾燥による南米産大豆の減産懸念から350ドル/トン台まで上昇した。その後、米中間の貿易摩擦などにより米国からの大豆輸出が下方修正されたことから下落し、現在は330ドル/トン前後で推移している。
3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、11月には50ドル/トン前後で推移し、軟調な原油相場や中国向けの石炭輸送需要の減少により40ドル/トン台前後まで下落したが、大豆および石炭輸送需要の増加から、現在は40ドル台半ばで推移している。
4. 外国為替は、12月には112円前後であったが、米国株価の急落を受け、1月には110円を下回る水準まで円高がすすんだ。その後、良好な米国経済指標により株価が回復したことなどから円安となるが、米中間の貿易摩擦により下落し、現在は110円前後で推移している。

